

## 止まり木



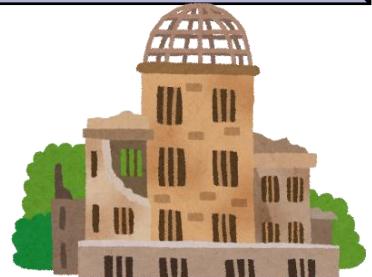
令和7年（2025年）

8月6日発行  
第17号

大阪市立野田中学校

## 忘れまい8月6日

—その時広島には黒い雨が降った—



1945年、8月6日8時15分、広島に原子爆弾が投下され広島には黒い雨が降りました。その日のことを絶対に忘れてはならないという意義を込めて、毎年、広島平和式典が行われています。今日は、橋本先生の呼びかけに集まった2年生11名とともに式典の様子を視聴。8時15分に黙とうを捧げました。その後の広島市長の「平和宣言」、小学生2名による「平和への誓い」も視聴しました。『核兵器のない平和な世界を創るためにには、たとえ自分の意見と反対の人がいてもまずは話を聞いてみることが大事であり、決してあきらめない「ネバーギブアップ」の精神を若い世代へ伝え続けた被爆者。こうした被爆者の体験に基づく貴重な平和への思いを伝えていくことが、ますます大切になっています。』や『**自分よりも他者の立場を重視する考え方を優先することが大切**であり、そうすることで人類は多くの混乱や紛争を解決し現在に至っているということです。こうしたことを踏まえれば、国家は自国のことのみに専念して他国を無視してはならないということです。』という言葉が心に残りました。また、何よりも小学生2名による「平和への誓い」に心打たれました。

以下に全文を紹介します。よく読んでください。

## 平和への誓い



いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。

この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。誰なのか分からぬくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。

被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。世界では、今もどこかで戦争が起きています。

大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。

その事実を自分のこととして考え、平和について関心をもつこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとすること。

一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはずです。

周りの人たちのために、ほんの少し行動することが、いずれ世界の平和につながるのではないかでしょうか。

One voice.

たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはずです。大人だけでなく、こどもである私たちも平和のために行動することができます。

あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが、被爆者の方々の思いを語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎながら、平和を創り上げていきます。

令和7年(2025年)8月6日

こども代表

広島市立皆実小学校6年 関口(せきぐち)千恵璃(ちえり)

広島市立祇園小学校6年 佐々木(ささき)駿(しゅん)